

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成24年4月19日 (2012.4.19)

【公開番号】特開2011-53787(P2011-53787A)

【公開日】平成23年3月17日 (2011.3.17)

【年通号数】公開・登録公報2011-011

【出願番号】特願2009-200143(P2009-200143)

【国際特許分類】

G 0 6 T 1/20 (2006.01)

G 0 1 N 21/88 (2006.01)

【F I】

G 0 6 T 1/20 B

G 0 1 N 21/88 J

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月2日 (2012.3.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

画像処理装置であって、

複数の演算処理部と、

被測定物を撮影して画像データを生成するための撮像部に接続され、当該撮像部で撮影された画像データが入力されるカメラインターフェイス部と、

表示部に接続され、当該表示部に表示させる表示用画像データを出力する表示画面出力部と、

外部から入力を受け付ける入力部と、

前記画像データを処理する複数の処理単位を記憶するための記憶部と、

前記入力部からの入力により選択された前記処理単位の組み合わせからなる処理手順を登録する処理登録手段と、

前記表示部上に複数の並列処理モードを選択可能に表示するとともに、前記入力部からの並列処理モードの選択を受け付けるモード選択手段と、

前記モード選択手段により選択された並列処理モードに従って、対象の前記処理手順に含まれる複数の処理単位の各々を前記複数の演算処理部のいずれかに割り当てる並列化手段とを備える、画像処理装置。

【請求項 2】

前記対象の処理手順を単一の演算処理部で処理した場合に要する処理時間と、前記並列化手段により前記対象の処理手順を前記複数の演算処理部で並列処理した場合に要する処理時間との差を前記表示部に表示させるための比較表示出力手段をさらに備える、請求項 1 に記載の画像処理装置。

【請求項 3】

前記比較表示出力手段は、当該処理時間の差を数値表示として出力する、請求項 2 に記載の画像処理装置。

【請求項 4】

前記比較表示出力手段は、当該処理時間の差をグラフ表示として出力する、請求項 2 に記載の画像処理装置。

**【請求項 5】**

前記並列化手段は、

前記処理手順に含まれる処理項目に関する処理高速化の阻害要因の有無を判断する手段と、

前記処理高速化の阻害要因が存在する場合に、当該阻害要因を解消するための方策を前記表示部に表示させる手段とを含む、請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の画像処理装置。

**【請求項 6】**

前記並列化手段は、

前記対象の処理手順に含まれる複数の処理単位の各々を、複数の並列処理モードの各々に従って前記複数の演算処理部のいずれかに割り当てた場合における、それぞれの並列処理モードについての処理速度に関する情報を推定する手段と、

当該推定されたそれぞれの並列処理モードについての処理速度に関する情報をモード間で比較可能な態様で前記表示部に出力する手段とを含む、請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の画像処理装置。

**【請求項 7】**

前記対象の処理手順に含まれる複数の処理単位の実行順序を変更する並び替え手段をさらに備える、請求項 1～4 のいずれか 1 項に記載の画像処理装置。

**【請求項 8】**

複数の演算処理部および記憶部を有するコンピュータで実行される画像処理プログラムであって、前記コンピュータは、撮像装置、表示装置および入力装置に接続されており、前記記憶部には前記撮像装置により取得された画像データを処理する複数の処理単位が記憶されており、前記画像処理プログラムは、前記コンピュータを、

前記入力装置からの入力により選択された前記処理単位の組み合わせからなる処理手順を登録する処理登録手段、

前記表示装置上に複数の並列処理モードを選択可能に表示するとともに、前記入力装置からの並列処理モードの選択を受付けるモード選択手段、および

前記モード選択手段により選択された並列処理モードに従って、対象の前記処理手順に含まれる複数の処理単位の各々を前記複数の演算処理部のいずれかに割り当てる並列化手段として機能させる、画像処理プログラム。